



みらいつうしん

2月号

2026年2月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子



春の訪れを願って

今年は寒波の影響で、各地で大雪が降り、多くの方々が不自由な生活を送られています。関東地方でも極寒の日々が続いて、誰もが暖かい春が早く訪れますようにと願いながら、じ〜っと寒さと今置かれている状況に堪えています。一日も早く平和な春が訪れるといいですね。

暦の上では、2月3日は節分です。日本では昔から、邪気を払い福を呼び込む「追儺（ついな）」という儀式が行われていました。本来節分は年に4回あります。立春、立夏、立秋、立冬の季節の変わり目（前日）を指しますが、特に2月4日の立春は、昔は今でいうお正月にあたり、福を招きたいという人々の願いから、2月3日の節分には家の入口に柵の枝やイワシの頭を飾り、豆まきを行い、邪気を払い無病息災を願う風習として現在でも行っているとのこと。本園でも節分の行事はとても大切にしており、幼児クラスは、節分の話丁寧伝え、個性豊かなお面を作り、心の中に潜んでいる泣き虫鬼やなまけ虫鬼、いじわる虫鬼を退治できるよう、また世の中が安全で幸福が訪れるよう、楽しい豆まきを計画しています。乳児クラスも、恐怖感が生まれないよう豆まきを行い、みんなにも幸せが来ることを伝えていきたいと考えています。今年は、年明けから天災が相次起きていますので、皆様にも大きな災害がなく幸せがたくさん訪れますように、心からお祈りいたします。

さて、子ども達の様子ですが、寒さに負けず園庭で元気に遊ぶ姿を見て、やはり子どもは「風の子」だなと改めて感じます。北風が吹こうが気温が低かろうが、自分の体をたくさん使って遊びに夢中になっています。また、友達同士の対話が学年問わず増え、遊びも一人よりも友達との関わりを楽しむものに変化しています。遊びのアイデアもどんどん出てきて一緒に居るだけで楽しい気分になります。これは、遊びが膨らみ、学びが多くなった証です。同時に友達と関わることで、友達への思いやりや尊敬、あこがれも多く芽生えていることも感じられます。乳児さんの言葉の数もかなり増え、一生懸命話そうとする姿や他学年の行動をまねして挑戦しようとする姿は微笑ましく、こんなにも成長するのだなと感動します。

2月は、「みらいランド」というにじ組さんとそら組さんがお店屋さんやゲームコーナーを作り、ほし組さんと乳児さんを招待してお買い物ごっこを体験するイベントがあります。ここでもたくさんの人との関わりがあり、準備する過程でも仲間意識や協力する大切さなどたくさんの学びがあります。色々な子どもの顔も発見できる場面でもあるので、毎年楽しみにしている活動です。人の為に何かを作りおもてなしをする体験は、まさに、人間形成の基礎を培う上で、とても大切だと思います。にじ組やそら組さんも2日目はお互いのお店に行きお買い物ごっこを楽しみますが、子どもたちにとって良い体験になるよう職員も丁寧に対応していきたいと思っています。

にじ組さんは、2月6日は、就学前の小学校体験のため、新城小学校に行きます。本園は、日ごろから5年生と5・5交流をしていますので、緊張はないと思いますが、より一層小学校に興味をもつきっかけになり、就学に期待がもてることを祈ります。

まだまだ寒さが厳しい日が続きそうです。体調には十分お気を付けてください。



みらいランドのピザ屋さんの
トッピング準備中



ほし組さんの鬼のお面
「かっこいいでしょ」



みて！こおり

園のお池に毎朝できる氷
が冷たくて興味津々